

■ ムラサキシキブ . . .



紫式部とは、源氏物語の作者であり、ユネスコお墨付きの「世界の偉人100」に登録された唯一の日本人です。そして、植物名に彼女の名前をそのまま冠したのが今回紹介する「ムラサキシキブ」です。

この植物は、もともと「ムラサキ・シキミ」と呼ばれていたのですが、園芸用に販売されるうちにイメージのよい、しかも語呂の類似している「紫式部」にあやかっただのではないかと思います。もっとも、紫式部自身も「紫の上が出てくる物語の作者で、父が式部丞という役職にあった」という理由で呼ばれている通称ですから、どちらもどっちかもしれません。

ちなみに、「シキミ」とは「敷き実、または重き実＝実がびっしりなる」という意味で、仏様にお供えする植物としてご存知の方も多いことでしょう。

さて、本題に戻りましょう。ムラサキシキブはクマツヅラ科カリカルパ属の低木で日本や台湾、中国に分布する落葉性の低木です。当団地では、6・7号棟間の花壇にひっそりと実をつけていますが、昨年よりは確実に大きく育っています。



学名でもあるカリカルパ (Callicarpa) とは、ギリシャ語の「callos (美しい) + carpos (果実)」が語源で「美しい実」の意味です。葉は対生で、花は淡紫白色の小花が散房花序をつくり7月頃に咲きます。光沢のある紫色の実がとても美しいので観賞用に広く栽培されていますが、その多くがコムラサキです。ムラサキシキブと比較すると全体に小型ですが、果実の数が圧倒的に多くて美しいので、私たちが目にするものはほとんどがこちらです。

コムラサキは、ムラサキシキブと別種ですので本来はきちんと区別すべきなのですが、今ではすっかり母屋を乗っ取った感があります。両者の違いをまとめると次のようになりますが、一般的には、花や実の柄の位置が葉柄の付け根と離れていればコムラサキということで見分けるそうです。

・紫式部：

やや大型（背が高い）。実も大きめ。
実は比較的バラバラにつける。
葉全体に鋸歯がある

・小 紫：

やや小型（背が低い）。実も小さめ。
実は枝に沿って固まるようにつける。
葉の先端半分だけに鋸歯がある

したがって、当団地も正式には「コムラサキ」ということになります。

ところで、コムラサキにはコシキブ（小式部）という別名もあります。百人一首「大江山 いくの道の 遠ければ まだふみもみず 天の橋立」の詠み人である小式部内侍の名からの由来ですが、ムラサキシキブといいコシキブといい、才知ある美女に名を借りての命名には頭が下がります。

最後に、紫式部の百人一首を詠んで締めくりたいと思います。

「めぐりあひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲がくれにし 夜半の月かな」

